

2018 年度 センター試験 地学（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：30 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 例年通りの必答問題 4 題、選択問題 2 題から 1 題選択の計 5 題構成であり、解答数に変化は見られなかった。「ダークマター」の出題が初めて見られたものの、基本的な内容を問う問題であったため難易度の変化に影響を与えることはなかった。選択問題は 2 題とも昨年度とテーマが異なった出題となっているが、一昨年とほぼ同様であるため過去の問題で演習を行ってきた受験生は特に問題なく解答できたであろう。よって問題レベルに関しては、昨年と比較して変化なしと判断した。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	地球 A-地球の内部構造 B-地震とプレート C-地球の形状とアイソスタシー D-上部マントルとマグマの形成	27 点	教科書に掲載されている基本事項を理解していれば容易に解答できる問題である。日ごろから教科書の基本用語をおさえ、過去の問題で演習を行ってきた受験生にとっては取り組み易かったであろう。
第 2 問	岩石・鉱物と地質 A-変成岩 B-地質調査 C-河川による侵食・運搬・堆積	17 点	昨年度に引き続き取り組み易い問題となっている。B で出題されている地質図も最も基本的な構造のものを扱っており、問題演習を行ってきた受験生にとっては容易に取り組めたであろう。他の問題に関しても特に問題なく解答できたと思われる。
第 3 問	大気と海洋 A-コリオリの力と地球上の風 B-大気と海洋の相互作用 C-海水の運動	27 点	標準的な問題である。C の津波の問いでは、公式暗記を前提とした問題のため学習状況により差が出た可能性がある。また、その他の問いに関しては、教科書に記載されている図や用語の理解があれば、大きな混乱なく取り組めたと思われる。
第 4 問	宇宙 A-HR 図 B-金星	17 点	宇宙に関する知識及び基本的な計算問題で構成されている。A の計算問題においては、公式を使わずに正解を導く設問であり、単に公式を当てはめるだけの学習をしている受験生は戸惑ったかもしれない。B の問題は総じて取り組み易かったであろう。
第 5 問 選択	地質と岩石 A-地質時代の気候と地質構造 B-火成岩	12 点	A の図形を読み取る問題は典型的であり、取り組み易かったであろう。また、その他の問題に関しても教科書の基本事項をおさえれば、容易に正解にたどり着いたであろう。
第 6 問 選択	宇宙 A-宇宙の構成要素 B-天体	12 点	センターで初めて「ダークマター」の知識を問う出題がされたものの、基本的な知識を問う問題であったため、取り組み易かったと思われる。また B の天体の問題は、日ごろから図や写真を確認するという学習姿勢を問われた問題であった。